

BRIDGEPLUS

関東労災病院医療連携情報(平成31年3月18日号)

Information

□ クローズアップ診療 (スポーツ整形外科)

□ 形成外科で喜ばれる治療 (後編)

クローズアップ診療 (スポーツ整形外科)

今回は肩関節外来についてクローズアップしました。

肩関節外来について

肩関節に関しては、スポーツによる受傷の有無は関係なく、一般の肩関節疾患全般に関する診療も行っております。
(スポーツ整形外科部長 岩噌 弘志)



常日頃、当科への患者様のご紹介ありがとうございます。

当院スポーツ整形外科は、スポーツによる受傷の疾患の治療を行わせていただいております。治療中での手術は関節鏡を用いた手術が中心となっておりますが、その関節鏡技術を生かして肩関節の関節鏡手術も行っております。

肩関節に関しては、スポーツによる受傷の有無は関係なく、一般の肩関節疾患全般に関する診療も行っております。

代表的な疾患として

1) 肩関節周囲炎

広範囲な疾患概念で、五十肩・凍結肩・石灰沈着性腱板炎・腱板炎(インピンジメント症候群)等いろいろな疾患と診断名があります。

大雑把で逆説的な言い方をすると、“手術を要するような重篤な損傷を伴わない軟部組織の炎症・拘縮”となると思っております。

2) 腱板断裂

以前は保存療法が基本でしたが関節鏡の技術の進歩により手術加療で劇的に治癒率が上がり、腱板断裂は手術加療が原則と考えられています。

本疾患の一番の問題は、上に書きました肩関節周囲炎の中には腱板断裂が存在している例が多数あることです。
(裏面へつづく)

本誌へのご意見、ご要望がございましたら、右記mailへお寄せ願います。地域医療連携の充実に役立てていけるよう努めてまいります。

発行人: 地域医療連携室

☎044-411-3131

mail: renkei4@kantoh.johas.go.jp

BRIDGEPLUS

“肩が痛くなったけどレントゲンで骨が異常無いから、五十肩と言われたけど、よくなるのでMRIを調べたら腱板が切れてた”ということがよくあります。症状のみでは“いわゆる五十肩”と腱板断裂は診断が不能の場合が多いので、五十肩と思われても症状が重篤か治療による改善が見られない患者さんは、MRIを撮っていただくか、当科外来にご紹介いただければ拝見させていただきます。保存的加療で良いとのことであれば、逆紹介させていただきますりハビリ等をお願いさせていただきますこととなりますので、よろしくお願いいたします。

3) 反復性肩関節脱臼

肩関節が亜脱臼または脱臼すると、前方の軟部組織損傷がほぼ必発です。その80%以上は関節唇と言われている軟骨であり保存的加療では治癒しません。“脱臼の時に靭帯が伸びたから体幹固定を3～4週すれば伸びた靭帯もとに縮むからくせにならない”というのは現在ではエビデンスが無いので、2回以上脱臼を繰り返す方で困る方は関節鏡視下に損傷した関節唇を修復する手術が有効です。

代表的な肩関節疾患について述べさせていただきました。肩関節疾患でのご紹介はスポーツによる受傷は関係なく 火曜日(岩噌・吉富)水曜日(岩噌)金曜日(岩噌・吉富)までご紹介いただければ拝見させていただきます。何卒よろしくお願いいたします。

形成外科で喜ばれる治療(後編)

～当院で提供する医療が患者様に満足していただけることは、患者様、紹介をいただいた先生方及び当院との信頼関係の充実に繋がります。形成外科医師が患者様の満足度を実感した医療を紹介いたします～

(形成外科部長 荻野浩希)



形成外科で取り扱う疾患のうち、患者様に特に喜ばれる3大治療は、
(1) 瘢痕形成術 (2) 眼瞼下垂手術 (3) レーザー治療です。前回に引き続き今回は後編として、レーザー治療をご紹介します。

レーザー治療

・当院にある皮膚治療用レーザーは、Qスイッチアレキサンドライトレーザー、QスイッチNd:YAGレーザーと炭酸ガスレーザーです。Qスイッチアレキサンドライトレーザーは、異所性蒙古斑、太田母斑、外傷性刺青に保険適応があります。自費になりますが、老人性色素斑(しみ)の治療もできます。適切な出力でレーザー治療をした場合、薄い痂皮を作ります、1～2週間後痂皮が自然脱落すると瘢痕を作ることなくしみが取れます。老人性色素斑(しみ)は、1回の治療で取れることが多く、異所性蒙古斑では3～4回程度、太田母斑では色素が深いため更に照射回数が必要です。目立つ異所性蒙古斑は乳児から治療を開始します。小児は成人よりも皮膚が薄いため弱い出力でも十分効果があります。乳児の場合は、麻酔クリームを外用し外来で治療します。成長すると抑制できなくなるのと精神的なトラウマが残らないように入院全身麻酔下にレーザー治療になります。レーザー治療によりアザが目立たなくなったと本人・ご家族、またしみが目立たなくなり薄化粧が可能になったと女性から喜ばれます。

○ご不明な点、今後、希望する演題等がございましたら、遠慮なく地域医療連携室までお申し出願います。

(☎:044-411-3131 mail : renkei4@kantoh.johas.go.jp)



当院は地域のランドマークを目指す地域医療支援病院です。

BRIDGEPLUS